

留学先国名 : 米国

留学先学校名 : ウェルズリー大学

留学期間 : 平成 25 年 8 月 21 日 ~ 平成 29 年 5 月 26 日

【大学 4 年目 : 秋学期】今学期は主専攻・神経科学の卒業に必要な最後の科目の履修を終了すると共に、副専攻・教育学で取得予定の小学校教員免許のための本格的な教育実習も始めました。更に卒業後に向けてのフェローシップや大学院のための願書の作成、昨年夏からおこなったマサチューセッツ工科大学 (MIT) での研究 (ウェズリー大学と MIT の単位交換プログラムを利用) のまとめやジャパンクラブ会長の仕事もあり、これまでに経験したことのない忙しさに追われました。ストレスがたまりましたが、冷静な気持ちで向き合い、限られた時間の中で集中してベストを尽くすことに心掛けました。

【授業】3 年目までは幅広い授業を受けましたが、今学期は主専攻の神経科学と副専攻の教育学の履修を終了するために、最難度レベル 300 の神経科学と教育学の授業を受けました。Neuroscience 300 の授業は 14 人ほどの少人数のセミナー形式で、この授業では研究者として研究資金を得るために必要な Grant のための練習をしました。多くの文献を読み、研究の提案を 20 ページ以上のエッセイにまとめました。また、Computational Neuroscience の授業ではコンピューター・プログラミング言語 (Matlab) を使っていろいろな現象 (例えば、錯視やパーキンソン症状) を神経のレベルでモデリングしました。講座最後のプロジェクトは文献の一つを選び、その文献に書かれている数式をプログラミングし、研究結果を再現するというものでかなり難しかったです。何週間もかけて苦手な微分数式などに向き合い、ようやく記憶のモデルを理解することができました。私は認知神経科学に興味があり、この理由で心理学寄りの授業を履修してきましたが、このように数学やコンピューターサイエンスを使って科学的に認知神経科学に関係する記憶を再現することができ、とても面白かったです。また、今学期は MIT で Research and Communication in Neuroscience and Cognitive Sciences という授業も受講し、夏休みに MIT の Gabrieli 研究室で分析した結果を論文の形にまとめました。論文を書くに当たったアドバイスをたくさんもらったこの授業は将来研究の道に進みたい私にとってとても有意義な授業でした。この研究結果を Society for Research in Child Development という学会 (来年 4 月、テキサス州) で発表します。この学会に向けてさらに準備し、良い発表にしたいと思います。

【ジャパン・クラブ】ジャパン・クラブは、日本の文化を広めるのを目標としたクラブで、私は会長を務めています (<https://www.facebook.com/wellesleyjc/?fref=ts>)。1 年生の時にはジャパン・クラブの会長になるなんて考えたこともなかったですが、ウェルズリー大学で尊重されているリーダーシップの育成に年々影響されたためか、3 年目の春学期に会長に立候補をすることを決めました。ウェルズリー大学のジャパンクラブには日本からの学生もいますが、アメリカでずっと生まれ育ってきた日系人や日本語を学んでいる

学生もたくさんいますので、多様性豊かなクラブとして知られています。先学期は副会長として MIT で准教授をされているスプツニ子!さん（尾崎優美さん）に講演をお願いし、フェミニズムに関するイベントを開催しました。今学期は会長として運動会や豆乳鍋パーティなどの企画を運営委員と進めたり、ハワイクラブとのコラボレーションでおにぎりやスパム結びなどを作りハワイと日本の食文化を分かち合うイベントを開催しました。また、すべてのアジア文化系のクラブの会長が集まる Pan-Asian Council や Multicultural President's Council にも参加してアジア人・アジア系アメリカ人の文化をどのようにキャンパスに取り入れるかなどを考えたり、すべてのクラブが集まる大きなイベントを企画したりしました。このような会を通して、フィリピン・ハワイ・西アジアのクラブの会長たちとも仲良くなる機会ができ、お互いのイベントに参加したり、ウェルズリー大学が新たに作ろうとしている「アジア系アメリカ人学」という副専攻などについても話しあいました。

【大学での変化】今学期は忘れることができない歴史的な学期でもありました。ウェルズリー大学初めての黒人の学長、President Paula A. Johnson が就任され、キャンパスは将来への期待で包まれました。そしてヒラリー・クリントン国務長官の母校に通う学生として、全生徒が選挙に向けての期待と不安を共感しました。ウェルズリー大学の卒業生が米国歴史初の女性の Presidential Candidate になれたことの嬉しさと共に、大統領にはなれなかった悔しさ。この投票日の夜に起きた信じられない出来事を忘れることができません。この数年間、ディスカッションを通してリベラル・アーツ教育の中でアメリカの白人社会について深く考えました。また、女子大学という独特な環境の中でリーダーシップと自信を磨いてきました。このような経験があったからこそ、今回の選挙はアメリカに住むマイノリティとして、また女性として身近に感じるものでした。しかしながら、この選挙の中で一番印象に残ったことはやはりクリントン国務長官が最後まで突き通した強い姿勢です。「このガラスの天井を壊すんだ」という強い気持ちを心に秘め、将来、社会に貢献できたらと思います。

【今後の予定】今学期で主専攻の神経科学の専攻に必要な単位をすべて取り終えました。来学期からはマサチューセッツ州の教員免許を目指して、毎日 Lawrence 小学校で教育実習をします。Lawrence 小学校はボストン近郊の学校で、駐在の日本人が一番多い学校として知られています。私はカリフォルニア州で生まれ育ちましたので、同じような経験をしている子供たちを教えることができることをとても楽しみにしています。卒業後、一旦教員として働くか、研究の道に直接進むか迷い中です。この教育実習は自分の進みたい道を考える上で良い機会ですので、Lawrence 小学校の生徒と触れ合いながら、将来のことを考えたいと思います。